

令和六年五月 普賢光明

華嚴宗 普賢光明寺

今月の法話

一、「観音様の心」 二、「仏教と動物 畜生道の救い」

一、観音様の心

私たちにとって一番大切なこと。それは生きることです。命の大切さは生きとし生けるものたちにとって第一です。しかし、生きることはとても大変です。何故なら生まれてから死ぬまでの間、けっして一人では生きられないのです。勝手に産まれ育ち勝手に死ぬけないのです。「ただ一人では生きられない」私達が縁によって生かされていることを以前にお話ししました。

私たちは仏教との御縁、観音様との御縁をいただきました。これも運命的出会いでしょう。そして、この出会いの意味を知れば私達がこれから何をして行くべきか解るのです。そこには「観音様の心」すなわち【慈悲】があるのです。観音様は大慈大悲観世音菩薩といわれます。最も大いなる慈悲を持たれる菩薩様なのです。この心こそ仏の真実の心といっても良いのです。この慈悲の教えは宗教を超えて世界中にあります。信仰によって自分達以外の信仰や教えは間違いと否定し排斥するものもあります。それが原因で、古来より争いが起きています。

さて観音様の心【慈悲】とは何か？それは『全てに思いやりの心を持ち、それを実践し、穏やかな心を持ち救済する事』です。優しさ、平等心、許す心を持ち、出来る限り施すことです。あたりまえですが、行うには難しいことです。観音様は私達がこの心を持って行動することが困難であることもご存知です。だからこそ教え諭し救ってくださるのです。お釈迦様はその為に観音様を遣わされ、私達に教えられた。これも仏の慈悲なのです。

慈悲の心の実践には【不必要に怒らない】ことが肝要です。いつもイライラしていたり短気に怒鳴りつけたり、嫌な言葉や行動をしたりしては本末転倒です。心穏やかに冷静な気持ちで接することです。自身が不安だと余裕もなくなり、他人事ではないのが現実です。またその不安定がストレスとなって心や身体の病気の原因になります。ゆえに慈悲とは、自分自身も救うことなのです。

すべての仏菩薩がこの慈悲の実践を行います。その第一が観音様なのです。まずはその観音様の名前をお呼びする。そして悩みや希望を申し上げて救済を求める。心が落ち着いて来たら他人の幸せも祈ることです。施しの最初は祈りです。

そして、施しには見返りを求めない心が大切です。感謝をしてもらいたいなんて思わぬことです。私達の欲望とは、合い反することですが、この心はこの世を幸せにします。ただし、何でも施すのではなく、今一番大切なことのできることを施すことです。もちろん自分自身の身体は優先です。しかし無理ない施しはなるべく実践すべきです。時にはお節介などと罵られることもあります。それらにめげずに、一つずつ取り組むことです。

また、自己満足で、やった気にならないことも肝心です。それには相手の気持ちになることです。同じ目線で見て安心させることも大切です。子供には子供の視線で、全てを理解することは不可能かもしれません。ただそのよくな心掛けが大切です。

じゅんていいかんのん

観音様の変化の中に、准胝観音がいらつしやいます。この観音様は仏眼仏母とも言われ衆生の心を清浄としてあらゆる仏菩薩を産み出し仏の道に導く仏様です。ゆえに安産や子宝などのご利益も言われています。観音様の心に近づくには観音様になりきるのが近道ですが、密教では身口意の三業と言って心に仏様を思い浮かべその仏様の印を結び口に真言（仏様のマントラ、言葉）を唱えます。すると仏様が自身に宿り救われると言われます。しかしながらその修行はかなり難しいこともあります。なかなか精神が落ち着かず雑念ばかりで一心に祈れないのです。またその奥義を極めるためには僧侶となり伝授を受けなければなりません。たとえ修行しても空海上人のようにはなれないことは当然です。ただ少しでも仏様に近づくことは出来ます。ならば観音様の持つ慈悲の心を目標として実践して行くことです。その実践こそ無財の七施です。これは以前に何度もお話ししました。「眼施、和顔施、言辞施、心施、身施、床座施、房舎施」

観音様の心は私達に幸せになるための奥義を教えているのです。宗教を越えた心の基本なのです。この教えが世界中に広まれば争いは起きないと思えます。世界の平和と全てに感謝の祈りを実践してくださいませ。

二、仏教と動物 畜生道の救い

仏教説話において動物のモチーフは数多く存在します。例えば、今月お祭りのある大黒様で言えば「ネズミ」が眷属であるとされます。これにより甲子の子の目を大黒様とする信仰があり、これは東大寺を始めとして全国各地で見られます。ではなぜ、大黒様の眷属がネズミなのかというと、これには様々な説があります。先月のお話の中で説明したように元来厨房の神様であるから、米を勝手に食べてしまうネズミを支配するという説。もう一つは大國主神が須佐之男命から試練を課された時のお話。草原に火を放たれた大國主にネズミが逃げ場を教えたという逸話から。さらにネズミの繁殖力から、子孫繁栄を表しているとも。また、胎蔵界曼荼羅の北方に位置し、北方（子の

方角)守護の神であるからなど言われは様々。ただし、ネズミと大黒天の関係はそんなに古くないもので江戸時代の後半で見られるようになったものです。その頃に流行した白鼠を縁起物とする流行に乗った形なのかもしれない。

さて、ネズミに限らず多くの動物を仏閣の中でも見かけることができます。そのうちの一つは馬です。馬と人間の縁は深く、七千年以上昔から家畜化されてきました。仏教ではお釈迦様の出家の際に、カンタカという白い愛馬を伴っていたことが知られています。このカンタカは死後、神々に迎えられ天界へと転生したとか、バラモンに生まれ変わり仏弟子となったなど言われています。ここで注意してほしいことは、馬のまま成仏はしていないという点です。動物は成仏することができるとか? ペットを飼われている方などは気にされると思います。端的に申し上げれば「できない」でしょう。大きな意味では仏であると言う事はできませんが、悟ることはできません。

仏教の輪廻転生において三悪趣というものがありません。「地獄趣」「餓鬼趣」「畜生趣」です。特に畜生趣の動物たちは自身が無明の苦しみの中にいることを理解できないため仏道を歩むことさえできない。そんな動物を救ってほしいという祈りを表す菩薩様が馬頭観音であります。頭に馬の首を乗せた赤色にして忿怒相の異質な観音様です。馬が草を食むように、人々の煩惱を喰らい尽くしてくださいという観音変化のお姿で六観音にも数えられます。元はインド神話のヴィシヌ神の化身の一つであるハヤグリーヴァという馬頭の神とされ、馬と人間とが古代の世から非常に近い間柄であることを示しています。馬頭観音は畜生道に墮ちた衆生をお救いくださる菩薩様で、牛馬をはじめとした家畜の供養のためと、街道のいたるところで石碑を見かけることができます。

次に紹介するのは「狐」。狐といえばお稲荷さんを想像するかもしれませんが、元は仏教において茶枳尼天の眷属であったことからきています。お稲荷さんと仏教の関係は平安時代、東寺の鎮守が伏見稲荷大社であったことに端を発します。伏見稲荷の主神は宇迦之御魂神であるが、本地垂迹において茶枳尼天と習合されました。茶枳尼天は女神カーリーの使いともされ、人を喰らい悪逆を尽くす悪神であったが大黒天の姿を借りた盧遮那仏によって仏教に帰依させられた。この茶枳尼天の眷属は野干、ジャツカルであった。しかし、日本には生息していないため、似ている狐を眷属としたのです。このことから稲荷神社には狐が奉納されるようになったのです。茶枳尼天を本尊とする稲荷としては愛知の豊川稲荷が最も有名で、狐に乗って摩尼宝珠と稲穂を持ったお姿です。

不空羅索観音菩薩と縁の深い動物として鹿がいます。鹿皮をもつて袈裟とすることから鹿皮観音とも。不空羅索神変真言経巻一に曰く「若欲成就此陀羅尼真言三昧耶者。如法圖畫不空羅索觀世音菩薩。如大自在天首戴寶冠。冠有化阿彌陀佛。被鹿皮衣。七寶衣服珠瓔鑲劍。種種莊嚴執持器杖。(もし、この母陀羅尼真言の三昧を成就したいと欲する者は、法の如く不空羅索観世音菩薩を図画せよ。大自在天の如し、首に宝冠を戴き、冠に化阿彌陀仏有り、鹿皮衣を被り、七宝の衣服、珠瓔、環劍(腕輪)、種々莊嚴し、器杖を執持す。)」

また奈良の春日大社の主神であるタケミカヅチは鹿島神宮より白い鹿に乗って影向したとされ、これにより奈良では鹿を神の使いとして大切にしてきました。また、春日大社の主神は不空羅索観音の垂迹とされます。また、お釈迦様が初めて説法したとされる地も鹿野園(サルナート)と呼ばれる鹿が放し飼いにされている場所であり、絵画や壁画などにも鹿の姿が描かれています。

このように仏教において動物は様々な場面で登場し、教えを説く際の道標として用いられてきました。それは、私達人間が自然の中で動物たちとともに歩んできていくからにはほかありません。仏菩薩の慈悲は雨のように全ての生きとし生けるものに区別なく降り注ぎます。その心と実践は私達仏弟子も共にしなければならぬものです。よくよく心がけてくださいませ。 合掌

南無日光妙法蓮華經

「一言アドバイス」寒暖差が激しい為、体調管理と熱中症防止を常に心がけてください。また、《災害対策》は早めに準備することが大切です。

*五月のラッキーカラー、暗剣殺、五黄殺(五月六日〜六月五日)※一年通してのラッキーカラーは白色です。

*暗剣殺、五黄殺とは凶方位の事で移転増築や旅行など控えた方が良い方位となります。

五月のラッキーカラー 緑 黄 藤紫 暗剣殺 南西 五黄殺 北東

【お知らせ】

- ① 六月の勉強会の日程・普賢光明寺(鎌倉) 六月一日(土) 二日(日) 四日(火) 正午より
横須賀支部(産業交流プラザ)：六月十六日(日) 小田原別院・六月二十三日(日) いずれも午後二時より。
- ② 大黒天授祭を五月十九日(日) 午前十一時より厳修いたします。
- ③ 弁財天祭を六月十七日(月) 午前十時より厳修いたします。別紙にてご確認の上、お申込みください。
- ④ 滝行の予定・五月十二日(日) 集合六時 五月二十六日(日) 六月九日(日) 七月十四日(日) 塩川滝 午前七時集合
六月二十三日(日) 七月二十八日(日) 夕日の滝 午前六時 各駐車場にて集合 滝行、見学ご希望の方は前もってご連絡ください。体験希望の方に行着の貸し出しも行っています。
- ⑤ 仏像教室：五月十二日 六月九日(日) 十二時より